

自分らしい生き方を人生の最終段階まで続けるにあたっての課題

1. 本人の課題

- ACPのことを知らない人がほとんど（認知度3%）
- 事前に人生の最終段階について話し合う機会がない（約60%）
- 本人の意向が必ずしも尊重されていない
- ACPについての情報不足（なお、希望する情報提供元は医療機関や介護施設が約70%）
- 事前指示書を作成している人は全体の8%、代理意思決定人の選定は22%
- 適切な情報を元に対話を繰り返し、意思決定まで寄り添える人がいない
- 決められない人への支援の手が届きづらい

2. 家族等の課題

- 本人と家族の意向の乖離
- 最終的に家族の意向が優先されることがある
- 本人の意向が示されていないときの、意思決定の重圧（保守的になりがち）
- 本人の発言を言葉どおりに受け止めて良いのか

3. 医療・介護従事者の課題

- 本人の意向の不在
- 意向を表明されていても、家族や嘱託医の意向で叶えられない／具体性に欠ける／更新されていない
- 訴訟リスク（例え意思表示されていても、のちに家族に訴えられる）
- 外来で多忙なため、ACPを始める時間がない
- ケアにあたる人々の役割分担や連携が不十分
- ACPの内容を関係者で共有する仕組みがない

4. 社会環境の課題

- 本人が望む退院先が確保できない
- ケアにあたる病院や施設の連携が不十分
- 生きているうち／治療中に死に関して話し合うことは不謹慎という考え方が存在する
- 法制度が追い付いていない（救急搬送や本人の意思の尊重など）
- ACPの認知度が低い／情報提供や相談体制が足りない